

優秀賞

# 次世代へつなぐ危険物行政 ～制度・現場・教育・広報における 4つの挑戦～



## 福岡県 福岡市消防局

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 事例類型 | Ⅲ 効率化 Ⅴ 人材育成 Ⅵ 広報活動 Ⅶ デジタル化 |
| 取組期間 | 令和7年4月から                    |

### ● 背景

申請手続き等のオンライン化により、利便性は向上した一方、消防側の審査・決裁等に一部紙での手法が残るなど、完全電子化に課題が残っていた。また、危険物行政は高度な専門性を要する一方、属人的な運用に陥りやすい一面もあり、次世代への知識・経験の継承が課題となっていた。さらに、市民啓発の面においても、ガソリン等の身近な危険物に対する注意喚起など、有効な啓発活動が展開できていない状況であった。

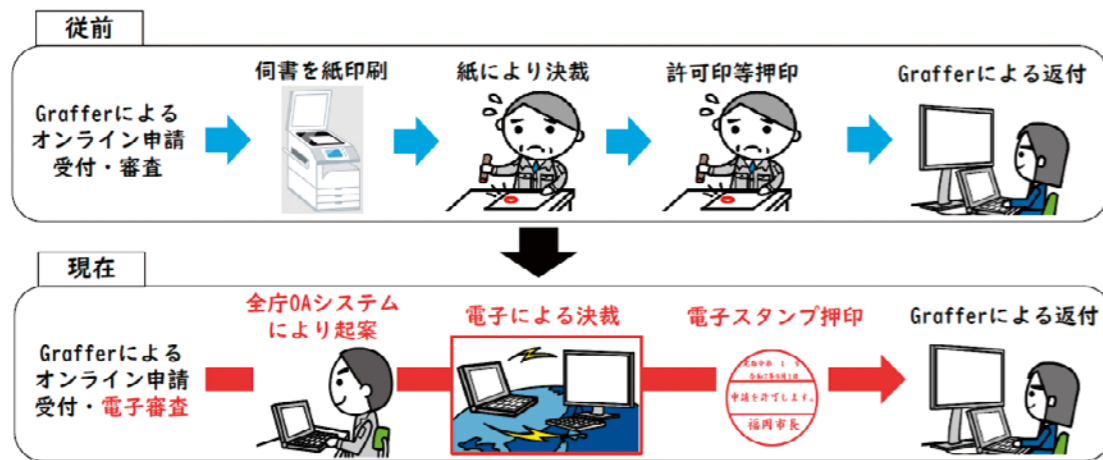
このような状況の中、DXの推進により業務効率化・有効化をさらに前進させるとともに、次世代が挑戦しやすく、学びやすい、継承しやすい環境を整えることこそが、未来の危険物行政を支える鍵となる。

本事例では、制度・現場・教育・広報という4つの異なるベクトルからDXを導入し、危険物に係る業務革新に挑戦した。

### ● 内容

#### ● 制度：オンライン化の拡充に伴う内部処理の電子完結（ノーペーパー）の実現

申請者等に対するオンライン申請の拡充が進む一方で、審査及び決裁は紙（伺書）で行い、許可印等を押印後に電子で返付するなど、業務の非効率性を招いていた。そこで、内部規程を改正し、各種伺書15様式の廃止及び電子スタンプを導入し、電子審査、全庁OAシステムによる起案・決裁に移行した。これによりオンライン申請されたものであれば、申請から返付までを電子上で完結できる体制を構築した。



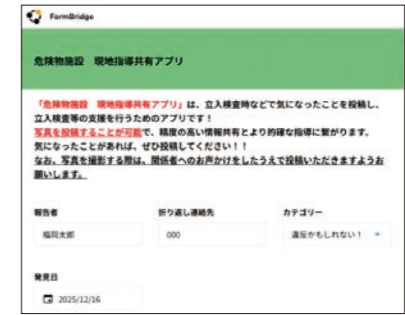
#### ● 現場：「危険物施設 現地指導共有アプリ」による立入検査の支援強化

危険物施設の立入検査時に疑義等が生じた場合、電話による本部との調整が一般的だったが、専門性や設備の特殊性により言語化の苦慮、認識のズレ等が生じていた。そこで、本市が導入しているサイボウズ株式会社のkintoneを活用し、「危険物施設 現地指導共有アプリ」を開発した。現場職員が写真投稿することで、本部との

視覚的・即時的な情報共有が可能となり、指導の精度と安心感が向上した。また、投稿データはクラウドに蓄積、共有され、教材化や審査指針等の見直しに活用している。

#### ● 教育：非対面協働型マニュアル作成による指導標準化

これまで、立入検査に係る統一的な指導マニュアルがなく、職員の知識、経験の差により、属人化が顕著で標準化が進みにくい状況にあった。そのため、本市では立入検査の見るポイントや具体的事例等をまとめたマニュアル「危険物施設立入検査を学ぶ 給油取扱所編」を作成した。作成にあたり、署と本部が業務チャット等を活用して非対面協働型で作業し、知識向上及び標準化を図った。マニュアルはタブレット上でいつでも確認でき、イラストや写真を活用し、新規職員にも理解しやすい教材内容で、属人的だった指導項目を抽出・整理することで標準化を実現し、業務効率化と教育環境整備にも寄与するものとなった。



#### ● 広報：燃焼実験等のSNS展開による市民啓発の拡充

当局では、福岡市民防災センターにより火災予防や地震、風水害への備えなどの防災情報をInstagramやFacebookで投稿し、市民の防火・防災意識の高揚に取り組んでいる。その中で、「ガソリンの危険性」に関するショート動画を「危険物安全週間」の期間を通じて配信しており、実際にガソリンの可燃性蒸気への引火実験等を映像化することでインパクトを与え、改めて身近にあるガソリンの危険性を広報し、市民啓発の拡充につなげた。



第一弾

燃焼実験 QR コード



第二弾



市民向けポスター

### ● 成果

これら4つの取組は、以下の成果をもたらした。

- 15種類の紙様式廃止、電子スタンプの導入、kintoneアプリの活用等により、内部業務の電子化を推進し、業務の効率化を実現した。
- 現場職員に寄り添った革新内容により、危険物規制事務の標準化だけでなく、専門分野への挑戦を支える基盤を整備し、安心感と挑戦意欲の醸成につなげた。
- 燃焼実験等のInstagramについては、全2回の投稿で8万回以上の再生を記録し、効果的な火災予防の啓発活動に寄与している。
- 制度・現場・教育・広報という四領域におけるDXの実践は、危険物行政にとどまらず、他分野へも展開可能なモデルとして機能し、DX人材育成にも資する基盤として提供できるものと考えている。

### ● 特記事項

- 「危険物施設立入検査を学ぶ 給油取扱所編」は現場職員から好評を得たことから、他の危険物施設についても追加制作した。
- Instagram（令和6年6月開始）は、フォロワーが1万9千人に達しており、燃焼実験のほかにも消防用設備等の取扱要領等をまとめた動画の中には365万回以上の再生を記録するものや、他都市の大規模火災発生時に合わせてメディアで紹介されるもの等、時代に即した防災知識の啓発ツールとして定着が図られている。